



佐伯史談

第三二号

「郷土史研究」誌
通算一四三号

昭和五十四年十二月十五日発行

佐伯史談會

事務局 佐伯市大字稻垣字龍護寺前

巻頭提言

佐伯史談會の使命

——新年度に寄する期待——

佐伯史談會
到会長 羽 柴 弘

佐伯史談會は約五百の会員、会友をもち、堅実を以て、けなから活発な研修活動をつづけ、次々と地域社会に奉仕寄与することを目指して来たつもりである。

「佐伯史談」も、貝才臣らしい姿ながら息長くつづけ、これはこれなりに大いにお役に立ち、この業績はまことに貴重である。單に記録・資料集として考えては、郷土資料の大森林である。鑛水といえるものが地誌、地誌、あるいはパルプ用材、分け入れはいくらでも貴重である。資料はとてたかたかた、

この集き上げや採集は、未だ幾多の累積を及ぼさず、なってお互いの中で確保されていく。この累積文字は、新年度さらには仲介していかなく、そのうちから、昔は昔は号外から、執筆寄稿者や延べ年人とはなから越す。お互いに大半は保存しようではないか。

さて次の敬題である。去る十一月主催した歩歩資料展で、結論のようには話の史文学碑の建築である。

国木田歩の文学碑は、今も城山の樹林の中に、山頂城跡に息づいてゐる。城山に登る人々多かれ少なかれ、佐伯の自然美、城山の林の中に見る歩歩の文学碑を、観察し、感じとらふと、歩歩の文学碑意外に少ないのでないか。わが史談會が主催して、市史の各種文化団体に協力をいれ、一般市民の浄財を募つて、「春の鳥」の一節を刻んだ文学碑を建てようというのである。

中根先生の敬題がある。独歩の「城山」も出来た。矢野龍溪の詩を刻んだ頭影碑も建て、三の七舟近は、山頂が美しい。今が「独歩碑」は、歩の文学は、歩の文学は、幸い城山を頂目、独歩

- 水子の主な採集
- 一 提督 佐伯史談會の使命 (羽柴弘)
 - 二 研究 佐伯史談と (羽柴弘)
 - 三 佐伯と国木田歩 (山本茂)
 - 四 佐伯の文学碑 (山本茂)
 - 五 歩歩の文学碑 (山本茂)
 - 六 歩歩の文学碑 (山本茂)
 - 七 歩歩の文学碑 (山本茂)
 - 八 歩歩の文学碑 (山本茂)
 - 九 歩歩の文学碑 (山本茂)
 - 十 歩歩の文学碑 (山本茂)
 - 十一 歩歩の文学碑 (山本茂)
 - 十二 歩歩の文学碑 (山本茂)
 - 十三 歩歩の文学碑 (山本茂)
 - 十四 歩歩の文学碑 (山本茂)
 - 十五 歩歩の文学碑 (山本茂)
 - 十六 歩歩の文学碑 (山本茂)
 - 十七 歩歩の文学碑 (山本茂)
 - 十八 歩歩の文学碑 (山本茂)
 - 十九 歩歩の文学碑 (山本茂)
 - 二十 歩歩の文学碑 (山本茂)